

【中央教育審議会 教育課程部会「審議経過報告」における主な指摘事項】
教育内容の改善

	指摘事項
学校教育の目的	<p>教育の目的は、一人一人の国民の人格形成と国家・社会の形成者の育成の2点であり、このことはいかに時代が変わろうとも普遍的なものである。</p> <p>子どもたち一人一人が、人格の完成を目指し、個人として自立し、それぞれの個性や能力を伸ばし、その可能性を開花させるための基礎を培うことは、学校教育の重要な役割である。また、我が国が、変動の激しいこれからの時代において、世界に貢献する品格ある文化国家として発展するためには、国家・社会の形成者として、それぞれの分野で存分に活躍することのできる基盤を、学校教育を通じて培う必要がある。</p>
基本的な考え	<p>基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力などを育成することにより、「確かな学力」をはぐくみ、「豊かな人間性」やたくましく生きるための健康や体力なども含め、どのように社会が変化しても必要なものとなる「生きる力」の育成を進めることがますます重要となってきた。</p> <p>「生きる力」を育てるためには、まずは、生活習慣、学習習慣、読み・書き・計算など、学習や生活の基盤を培うことが重要である。そして、将来の職業や生活への見通しを与える、国際社会に生きる日本人としての自覚を育てるなど、実生活を視野に入れて、学習や生活の目標を持たせることが重要である。子どもの発達の段階に応じて、こうした学習や生活の基盤づくりを重視する必要がある。</p> <p>その際、言葉を重視することが大切であるとの意見、体験を充実することが重要であるとの意見が数多く示されている。</p>
言葉	<p>言葉は、「確かな学力」を形成するための基盤であり、生活にも不可欠である。言葉は、他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段であり、家族、友だち、学校、社会と子どもとをつなぐ役割を担っている。言葉は、思考力や感受性を支え、知的活動、感性・情緒、コミュニケーション能力の基盤となる。国語力の育成は、すべての教育活動を通じて重視することが求められる。</p> <p>PISA型読解力： 「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」 連続型テキスト：文章で表されたもの（物語、解説、記録など） 非連続型テキスト：データを視覚的に表現したもの（図、地図、グラフなど） これからの時代に求められる国語力： 言語を中心とした情報を「処理・操作する能力」としての「考える力」 「感じる力」「想像する力」「表す力」の統合体 の力を支え、その基盤となる「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」</p>
体験	<p>体験は、体を育て、心を育てる源である。子どもには、生活の根本にある食を見直し、その意義を知るための食育から始まり、自然や社会に接し、生きること、働くことの尊さを実感する機会を持たせることが重要である。生活や学習の良い習慣をつくり、気力や体力を養い、知的好奇心を育てること、社会の第一線で活躍する人々の技や生き方に触れたり、自分なりの目標に挑戦したりする体験を重ねることは、子どもの成長にとって貴重な経験となることが指摘されている。</p>

	<p>学習や生活の基盤づくりを進めていくためには、学校の教育内容及び教育方法について、実生活と一層意識的に関係付ける必要がある。具体的には、発達段階に応じて、自然体験、社会体験、職場体験、文化体験等の適切な機会を設定することが求められる。身近な実生活とのかかわりの中で、実感を持って各教科等の知識や技能を習得できるようにすることが重要である。また、その知識や技能を実生活において生かしていくという視点を持たせることも重要である。</p>
<p>学校教育の目標の明確化</p>	<p>現行学習指導要領が目標としている「生きる力」を実社会や実生活との関係でより具体化し、社会との関係で学校教育に求められているものは何かについて、学校と社会との間の共通認識を形成することが重要である。</p> <p>教育課程部会では、＜略＞学校教育の目指すべきものとして、子どもの社会的自立、職業的自立を重視することが求められているとの意見が示されている。</p> <p>社会の側からの視点、国際的な通用生の視点も参考としつつ、学校教育の目標を整理し、教育課程の構造を明確化する作業を行っている。学校や教師が力を入れて取り組む方向を明確にすることで、学校力、教師力を十分に発揮できるよう支援することとしたい。</p> <p>社会の側からの視点 内閣府人間力戦略研究会「人間力戦略研究会報告書」の「人間力」 文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」 国際的な通用性という視点 OECDの「主要能力（キー・コンピテンシー）」</p> <p>「人間力」という考え方をを用いることは、現実の社会で大人がどのように生き、そこでは何が必要とされるのかを見せることによって、学ぶことの意義を子どもたちに伝え、何のために学ぶのかという目的を明確にすることをねらいとしている。こうした視点から学校教育を見直してみることによってその足らざることを補い、より充実したものに改善していこうとするものである。</p> <p>具体例： 主体性・自立性 （例） 自己理解（自尊）・自己責任（自律）、健康増進、意志決定、将来設計 自己と他者との関係 （例） 協調性・責任感、感性・表現、人間関係形成 個人と社会との関係 （例） 責任・権利・勤労、社会・文化・自然理解、言語・情報活用、知識・技術活用、課題発見・解決</p>
<p>確かな学力</p>	<p>学ぶ意欲や知的好奇心を育て、「確かな学力」を育成することは、学校教育の基本的な役割である。教育課程の構造を明確化する一環として、それをはぐくむ道筋（手立て）を明らかにすることが求められる。</p> <p>現行学習指導要領の学力観については、これをめぐって様々な議論が提起されているが、義務教育答申でも指摘しているとおり、基礎的・基本的な知識・技能の育成（いわゆる習得型の教育）と、自ら学び自ら考える力の育成（いわゆる探究型の教育）とは、対立的あるいは二者択一的にとらえるべきものではなく、この両方を総合的に育成することが必要である。</p> <p>そのためには、知識・技能の習得と考える力の育成との関係を明確にする必要がある。まず、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることを基本とする。こうした理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力の育成を重視する。さらに、この活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行うことで、自ら学び自ら考える力を高めることが必要である。これらは決して一つの方向で進むだけではなく、相互に関連しあって力を伸ばしていくものと考えら</p>

	<p>れる。知識・技能の活用が定着を促進したり、探究的な活動が知識・技能の定着や活用を促進したりすることにも留意する必要がある。</p> <p>現行の技術・家庭科の解説書から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・体験的な学習 直接体験することにより、よりよい行動の仕方を身に付けるとともに、知識・理解を確かなものにする ・問題解決的な学習 生徒が個々の課題に直面した時のよりどころとなる価値観を育成することが必要。 <p>こうして習得と探究との間に、知識・技能を活用するという課程を位置付け重視していくことで、知識・技能の習得と活用、活用型の思考や活動と探究型の思考や活動との関係を明確にし、子どもの発達などに応じて、これらを相乗的に育成することができるよう検討を進めている。</p> <p>技術・家庭科特有の探究活動 計画、実践、反省・評価</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">技術分野の例</td> <td style="width: 25%;">発想・動機</td> <td style="width: 25%;">設計・計画</td> <td style="width: 25%;">製作（制作、育成）</td> <td style="width: 20%;">評価</td> </tr> <tr> <td>家庭分野の例</td> <td>課題の把握</td> <td>解決のための計画</td> <td colspan="2">計画に沿った実践</td> </tr> <tr> <td></td> <td>評価と改善</td> <td colspan="3">生活における実践</td> </tr> </table>	技術分野の例	発想・動機	設計・計画	製作（制作、育成）	評価	家庭分野の例	課題の把握	解決のための計画	計画に沿った実践			評価と改善	生活における実践		
技術分野の例	発想・動機	設計・計画	製作（制作、育成）	評価												
家庭分野の例	課題の把握	解決のための計画	計画に沿った実践													
	評価と改善	生活における実践														
<p>基礎的・基本的な知識・技能</p>	<p><略> 基礎的・基本的な知識・技能の面については、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切との意見が示された。</p> <p><略> 子どもの発達や学年の段階に応じた教育内容の整理や指導方法の工夫が必要である。基礎的・基本的な内容については、小学校・中学校・高等学校において、あえて教育内容を重複させることが重要であるとの意見も数多く示されている。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能については、これまでの審議においては、特に義務教育を念頭において検討を進めてきており、社会的に自律していくために実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能と、義務教育及びそれ以降の様々な専門分野の学習を進めていく上で共通の基盤として習得しておくことが望ましい知識・技能とに区分して整理するという検討を行っている。</p>															
<p>知識・技能を活用し、考え行動する力</p>	<p>教育課程部会及び教育課程企画特別部会においては<略>教育を通じて育てるべき「力」を教科横断的に明確にしていく必要があるとの意見が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験から感じ取ったことを表現する力（感性や想像力を生かす） 情報を獲得し、思考し、表現する力（言語や情報を活用する） 知識・技能を実生活で活用する力（知識や技能を活用する） 構想を立て、実践し、評価・改善する力（課題探求の技法を活用する） <p>このように 感性に基づいて情報を処理する力や、 理性に基づいて情報を処理する力などを通じて、体験から知識・技能を獲得し、深め、実際に活用するための基盤となる力を養うとともに、 知識・技能を実際の生活や学習において活用する力、 課題探求や創意工夫をすることで、課題自体を発見したり、課題を解決したりする力を育成することが重要である。 ~ の力はいずれも、言葉の重視、体験の充実と深く関連する力である。</p> <p>こうした ~ の力は、現行学習自答要領においても、各教科等において、それぞれ位置付けられているが、今後は、各教科等を横断して、学校教育活動全体で力を伸ばしていくことが合理的であり、また、有効であると考えられる。</p>															

家庭、技術・家庭

	指摘事項
知識・技能の 定着	<p>衣食住の基礎的・基本的な知識、例えば、栄養素の基本的な働きなどを確実に定着させることや、技術を理解するために必要となる社会や環境との関係や技術の価値（知的財産等）などについて知ること重要である。</p> <p>日常の衣食住、情報機器や道具の適切な活用、家庭生活・経済生活に関する基本的な技能、特に食育の充実が求められる中で、食の重要性を理解し基本的な調理の技能を身に付けることなどが期待される。</p>
思考力・表現 力の育成	<p>社会や家庭生活を客観的な視点から理解するための具体的な資質・能力を育成することが求められる。例えば、家庭の一員として衣食住や消費、技術活用などの生活を自分で管理・工夫できること、身近な人々と協調性を持って責任ある行動をとることができること、子育ての大切さや親の役割を理解し行動できること、社会的な見方や考え方を身に付けることなどが重要である。</p> <p>ものづくりなどを通して技術を適切に評価し、管理できる力を育てることが重要である。</p>

家庭、技術・家庭専門部会における意見の集約（案）

		家庭・技術・家庭科（家庭分野）	技術・家庭科（技術分野）
子どもたち に身に付け させたい 基礎的・ 基本的な 知識・ 技能等	社会的に自立 していくた めに、実生 活において 不可欠な 知識・技能	<p>< 小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご飯やみそ汁などの日常の基本的な調理ができ、食材や日常的なマナーを知ること ・ 朝食のとり方や食品を組み合わせて食べることが分かること ・ 日常着の着方や手入れの仕方が分かり、簡単な補修の仕方が分かること ・ 家族の一員として家庭の仕事に協力できること ・ 身の回りのものの選び方が分かり、金銭の計画的な使い方が分かること <p>< 中学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素の働きやバランスのよい食事を摂るための食品の選択について知り、日常食の基本調理ができること ・ 衣服の目的に応じた着用や衣服の選択・管理ができること ・ 住居の機能と安全で快適な室内環境の整え方が分かること ・ 自分自身や幼児の心身の発達を知り、家族の関わり的重要性が分かること ・ 自分の身の回りの地域の生活や環境・福祉について知ること ・ 販売方法や消費者保護について知り、商品を購入するための表示等を知ること 	<p>< 中学校 ></p> <p>【材料加工の技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の種類と目的に応じた加工法について知ること。 ・ 製作に適した材料や加工法を選択できること。 ・ 費用や安全、作業時間などの条件を踏まえて製作物を構想できること。 <p>【情報処理の技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハードウェア・ソフトウェアの種類と構成を知ること。 ・ 情報の性質と目的に応じて、処理の方法を選択できること。 ・ 情報が社会生活や家庭生活に及ぼす影響を踏まえ、情報モラルやセキュリティの必要性を知ること。 <p>【エネルギー変換・生物育成の技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー変換や動力伝達の種類について知ること。 ・ エネルギー変換の特徴（変換効率や損失等）を判断し、適切な機器等を選択できること。 ・ 作物の種類について知り、それらの性質や環境条件に即して栽培する作物を選択できること。 <p>【技術と社会・環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間は生活を向上させるために、自然界の制約や社会的な制約の中で、物質やエネルギーの利用、情報の処理などについて工夫してきたことを知ること。 ・ 省資源・省エネルギーや品種改良等、社

		<p>会からの要求で発達した技術について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類が永年かかって開発してきた技術の歴史や，我が国の先人の知恵を知り，その価値（知的財産）を認めること。
義務教育段階及びそれ以降の学習を進めていく上での共通の基礎となる知識・技能	<p>< 小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の生活で用いる主な用具の基本的な扱い方ができること(包丁や針の使い方など) <p>< 中学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の組み合わせによって栄養素を適切に摂ることができることを知ること ・幼児の心身の発達にとって，子どもが育つ環境としての家族の重要な役割があることを知ること ・生活に必要な物資・サービスを選択，購入，活用できること ・環境や資源に配慮した生活ができること 	<p>< 基本的な技術を適切に使用するための知識と技能の例 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・縮尺を考慮した設計図が描けること。 ・簡単な手工具を安全に使用できること。(のこぎり・ドライバー・はんだごて 等) ・情報の収集と処理のために安全にコンピュータの使用ができること。(情報モラル・著作権への配慮等) ・家庭における電気機器等を安全に使用できること。(たこ足配線の危険性，日常で使用されている記号の意味 等) ・簡単な生物生産ができること(栽培の目的に適した条件等)
子どもたち自身に付けさせたい能力	<p>知識・技能を実社会の中で活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の衣食住や消費などの生活を自己管理できる能力 よりよい生活に関心を持ち，学んだ知識や技能を活用すること 自分でできることは自分でやろうとする意欲をもつこと 自分の生活が環境に与える影響について考え行動すること ・家族の一員として，家族や地域の人びとと豊かな人間関係を育み，よりよい家庭生活を工夫しようとする能力 よりよい家庭生活に関心を持ち，学んだ知識や技能を活用すること 環境や資源に配慮した生活を工夫しようとする 家族の一員としての役割に気付き，自分にできることを実践しようとする 家族関係をよりよくする方法について考え行動しようとする 子どもが育つ環境としての家庭や家族の大切さを考え行動しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の利用法や製品に対する技術的な評価力 技術の不適切な使用によって発生する問題を予測し，制御すること。 便利という理由だけで技術を利用するのではなく，技術がどのように利用されているかを本質的に評価し，思いやりのある技術の利用を考えること。 社会生活や家庭生活における課題を解決するために，費用や環境に配慮して適切な技術製品を選択できること。 ・生産，消費，廃棄に対する技術的な倫理観 技術の進歩による便益と将来生じる可能性のあるリスクとのトレード・オフを考えること。 生産者，管理者，消費者すべてが持つべき技術のモラルについて考えること。 ・技術に関連した仕事に対する理解力，職業に対する判断力 製作（制作・育成）という作業の価値について考えること。 技術に関連した仕事の社会的な役割について考えること。
感性や思考	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の課題を解決するための工夫・創造できる能力 <p>< 課題の把握 ></p> <p>自分の家庭生活の実態について，食生活の実態調査などから把握し，何が課題なのかに気付くこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的な課題を解決するための工夫・創造できる能力 <p>< 発想・動機 ></p> <p>生活上の課題を認識し，技術を用いて解決することの必要性を把握できること。</p> <p>課題解決のために必要となる情報を収集</p>

<p>力・表現力等</p>	<p><解決のための計画> 複数の調理方法を比較したり、衣食住の生活と家族や環境などのかかわりを考えたりして、解決のためのよりよい方法を見つけること。 課題解決のために、時間的効率や手作りのよさ、家族との団らんなどの何を優先させるか意思決定すること いつ、何を、どのように行うのか計画を立てること <計画に沿った実践> 計画に沿って、目的に応じた必要な材料などを選択すること 例えば、段取りよく、製作や調理（省エネクッキングなど）、作業、かかわりや行動、管理などを行う。その際、身に付けた知識や技能を応用したりすること <評価と改善> 家庭生活上の課題が解決できたか評価し、更に改善するもの、応用・発展できることを考えること 実際の活動を通して体得したものや環境等への影響についても評価すること <生活における実践> 実生活に生かす工夫をし、家庭生活の中で工夫し生かし続けること</p>	<p>できること。 <設計・計画> 課題解決に必要となる技術を選択できること。 活動を見通した上で、製作（制作）物の構想・設計や、栽培計画の立案ができること。 <製作（制作・育成）> 安全に配慮するとともに、活動の段取りを考え、効果的、効率的に製作（育成）できること。 メディアに適したソフトウェアを選択し、効果的に表現・発信できること。 システムやプログラムを理解し、目的達成の障害となっている部分を改善（トラブルシューティング）できること。 <評価> 課題解決についての評価とともに、環境や社会等への影響についての評価ができること。</p>
<p>関心・意欲・態度など</p>	<p>・よりよい価値を認識できる力(価値観) ・ねばり強く実現しようとする態度 ・協力して実現しようとする態度 ・文化伝統を大切に伝えようとする態度</p>	<p>・計画的・継続的に製作（制作・育成）に取り組む態度 自分の手で時間をかけて製品を完成させるなどの活動を通して、世の中には堅実な努力が必要であり、見通しを立てて進めなければそれまでの苦労が徒労になることを実感すること。 製品を苦労して開発し、製造してきた技術者やシステムを維持・管理している人々の仕事の意義を認めること。 ・他者と協力して仕事に取り組む態度 協調し、他人を思いやりながら製作（制作・育成）すること。</p>

教科横断的な課題

	指摘事項
<p>基本的な 考え</p>	<p>情報、環境、法や経済など様々な分野の教育内容について比較検討してみると、分野の違いはあれ、社会の変化の中で、自らの責任ということを十分自覚した上で、情報を獲得し、判断して、行動できる人材の育成を目指しているという点で変わりはない。こうした考え方は、「確かな学力」の育成や子どもの社会的自立を目指している学校教育改革の方向性と合致するものである。</p> <p>したがって、各分野の基礎的・基本的な知識・技能は、必要性に応じて各教科の教育内容の中に位置付けることを検討する必要があるが、力の育成の面については、ねらいとするところは共通であり、どの分野のどのようなプログラムを用いるかは、各学校の判断に任せることが適当である。</p> <p>また、学校教育の現状を考慮したときに、教育内容を増加させる方向だけでなく、時代の変化等により共通に指導する意義が乏しくなった内容については、見直しをする必要がある。</p> <p>情報、環境、法や経済など社会の変化に伴って国家・社会の形成者として新たに必要とされる知識・技能の定着のための教育については、学校外の人材や学習機会を有効に活用し、各教科等の関係部分を相互に関連付けながら理解させることが重要である。</p>
<p>情報教育</p>	<p>情報教育については学校の教育活動全体を通じて取り組まれているところであるが、情報通信技術（ICT）の特性について十分留意しながら、発達の段階に応じた教育を推進することが必要である。特に、小学校・中学校段階における教育については、総合的な学習の時間の情報に関する学習、中学校の技術・家庭科、高等学校の情報科との関連を整理しつつ体系化し、その充実を図ることが必要である。</p> <p>メディア・リテラシー（各メディアの働きを理解し、適切に利用する能力）の育成については、新聞・雑誌・テレビなどのマスメディアに多く接するだけでなくパソコン・携帯電話・インターネットなどメディアの普及・多様化が急速に進む中で、これらが言葉、コミュニケーション、マスコミュニケーションに大きな影響を与えていることから、各教科等の連携を図りつつ、学校教育活動全体を通じて指導の充実を図ることが必要である。</p> <p>その際、例えば、小学校段階では、通常の話し言葉や書き言葉との違いを理解すること、使用に当たって自他を傷つけることのないよう十分注意させることなどについて指導すること、中学校段階では、抽象的思考、科学的理解ができるようになるので、各教科において、学習内容の進展に伴い、活用のための基礎を習得させることなどについて指導することが考えられる。</p>
<p>科学技術 教育</p>	<p>科学技術教育については、理数教育の改善を図るとともに、科学が発達し様々な技術が活用される社会において、科学技術と社会との関わりについて、安全、リスク等の問題も含めて理解させること、ものづくりなどを通して技術を適切に評価し、管理できる力を育てることが重要である。</p>
<p>環境教育</p>	<p>環境教育については、社会科、理科、生活科、家庭科、技術・家庭科、総合的な学習の時間等の学校の教育活動全体を通じて取り組まれているところであるが、特に持続可能な社会の構築が強く求められている状況も踏まえ、エネルギー・環境問題という観点も含め、さらなる充実が必要である。</p>
<p>キャリア 教育</p>	<p>近年、ニートの問題など若者たちの社会とかかわろうとする意欲に低下が見られる中で、働くことに対する実感的な理解を深めることが大切であり、各教科等を通じて、協調性や責任感など他者とかかわる力の育成、社会生活の中での責任や勤労などの觀念の理解・定着を図る必要がある。</p>
<p>食育</p>	<p>食育については、食事の重要性、喜びや楽しさ、心身の成長や健康の保持・増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解し自己管理していく能力、正しい知識・情報に</p>

	<p>基づいて食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力、食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心、食生活のマナーや食事を通じた人間関係形成能力、各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心などを総合的にはぐくむという観点から、食に関する指導を行うことを「食育」としてとらえ、推進することが必要である。</p> <p>さらに、学校での取組とともに、家庭、地域との連携を推進した取組を行うこと、給食の時間を食育の重要な機会の一つとして積極的に活用すること、関係する教科等における食に関する指導において、学校給食をより積極的に教材として活用すること、栄養教諭や学校栄養職員が関係する教科等における食に関する指導において積極的に関わっていくことなどが重要である。</p>
性教育	<p>学校における性教育については、子どもは社会的責任を十分には取れない存在であり、また、性感染症等を防ぐという観点から、子どもの性行為については適切でないという基本的スタンスに立ち、人間関係の理解やコミュニケーション能力を前提として、心身の機能の発達などの科学的知識、理性により行動を制御する力、自分や他者の尊重の心をはぐくむことなどが重要である。</p> <p>性教育は、体育・保健体育をはじめとする各教科等の指導の関連を図りながら学校教育活動全体を通じて取り組む必要がある。また、発達の段階を踏まえた指導内容の体系化を図ることが必要である。</p> <p>また、教職員の共通理解を図るとともに、子どもの発達の段階を考慮すること、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導の内容と個別指導の内容の区別を明確にすること等が重要である。</p>
法教育	<p>民主主義や法、自他の権利と義務、公正さといった基本的な概念について体験的に理解することが、実生活への活用を視野に入れた場合、特に重要であると考えられる。例えば、学校や学級での集団生活の中で、正義や公正さを重んじて身近なトラブルを解決していく態度や実践などが期待される。</p>

豊かな心

道徳的価値、自主的・実践的な態度
(道徳) (特別活動)

- ・自分自身に関すること
- ・他者とのかかわり
- ・自然や崇高なものとのかかわり
- ・集団や社会とのかかわり



心情・実践

自尊・自律(例) ()

- ・自他の生命を愛しむ。自然を大切に、畏敬の念をもつ。
- ・自分自身のよさや個性を見出す。
- ・学びや生活の目標を立て、その実現のために忍耐力を持って粘り強く取り組む。
- ・生涯にわたり文化や芸術、読書に親しむ。

人間関係(例) ()

- ・弱い者いじめをしないなど他者を思いやる。
- ・他者に感謝したり、協力したりする。
- ・家族や学校、地域社会の一員として身近な人たちと豊かな人間関係を築く。
- ・正義や公正さを重んじてトラブルを解決する。

社会参画(例) ()

- ・自他の権利を尊重して、義務を果たす。
- ・社会、国家、国際社会に積極的に参加し、その発展に貢献していく。

確かな学力

関心・意欲・態度

のカッコ内の丸数字は、関係する「生きる力」の主要例案)

知識・技能等(例)

(国語) (社会) (数学) (理科) (生活) (音楽) (図画工作) (家庭) (外国語) (保健体育)

- ・漢字の読み書き、要約・説明・記録・報告の技能 など
- ・都道府県の名称と位置、各時代の特色、法や民主主義 など
- ・整数・小数・分数の四則計算の意味 など
- ・ヒト、動物、植物のつくり、酸素や二酸化炭素の性質 など
- ・身近な人々や自然との接し方、規則正しい生活 など
- ・音やリズムなど音楽の要素、国民に親しまれている歌など
- ・色の柔らかい感じ、形や色彩の表し方 など
- ・設計や製作(ものづくり)、情報処理の技能、情報モラル
・日常の基本的な調理、栄養素の働き など
- ・英語でのあいさつ、自己紹介、説明、質問、お礼 など

- 思考力・判断力・表現力等(例)
(教科、総合的な学習の時間)
- 体験から感じ取ったことを表現する力 ()
- ・例:日常生活や体験的な学習活動の中で感じとったり想像したりしたことを言葉や歌、絵、身体を用いて表現する。
- 情報を獲得し、思考し、表現する力 ()
- ・例:文章や資料を読んだうえで、自分の考えをA4一枚(千字程度)で表現する。
- 知識・技能を実生活で活用する力 ()
- ・例:「需要」、「供給」、「価格」などの概念を用いて、「長雨で野菜が高騰していること」を説明する。
- 構想を立て、実践し、評価・改善する力 ()
- ・例:調査研究や創作等において、構想を立て、実験・観察・創作・製作等を行い、その結果を考察し、改善したりする。

健やかな体

健康を保持増進し生活を改善する力 ()

保健体育

- ・身体能力(集中、持続、柔軟、巧緻)の向上
- ・睡眠、欲求・ストレス、病気・薬、環境衛生、事故・災害の知識 など

- ・例:食事、感染症など、健康や安全に関する知識を生かして生活を自己管理し、環境を改善する。
- 生涯にわたり運動・スポーツに親しみ、チャレンジ、フェアプレー、協力と責任などに関する態度をもつ。

「生きる力」の主要例(案)

- 主体性・自律性
(主として個人生活において必要となる力)
- 自己理解、自己責任
- 健康増進力
- 意思決定力
- 将来設計力

- 自己と他者との関係
(主として学校や家庭での生活において必要となる)
- 協調性・責任感
- 感性・表現力
- 人間関係形成力

- 個人と社会との関係
(主として職業生活や地域での生活において必要となる力)
- 責任・権利・勤労
- 社会・文化・自然理解
- 言語・情報活用能力
- 知識・技術活用能力
- 課題発見・解決力

実社会・実生活